

「第 2 回 愛知県沿岸部における津波・高潮対策検討会」の開催結果について

1. 概要

本日午後 1 時 15 分から「第 2 回 愛知県沿岸部における津波・高潮対策検討会（以下 検討会）」が開催された。

「高潮浸水予測図作成分科会（以下 分科会）」の分科会長である水谷委員（名古屋大学 教授）より、第 1 回及び第 2 回の分科会での検討結果の報告があり、その内容について審議が行われた。

2. 審議結果

○予測区域の設定について

- ・高潮の地域特性によりゾーニングを行い、「伊勢湾・衣浦湾」「三河湾」「表浜」の 3 ゾーンで検討を行う。

（別紙「高潮予測区域（ゾーニング）」参照）

○想定シナリオの設定について

- ・高潮に対する「防護レベル」及び「減災レベル」の検討を、6 ケースの想定シナリオにより実施する。
 - ・想定台風については、「防護レベル」を伊勢湾台風（当該地区の既往最大台風）、「減災レベル」を室戸台風級（日本に上陸した既往最大台風）とする。
- （別紙「高潮浸水予測の想定シナリオ」「イメージ図」参照）

「防護レベル」：発生頻度の高い高潮に対しては、できるだけ構造物で人命・財産を守りきる「防護」を目指す。

「減災レベル」：発生頻度は極めて低いが影響が甚大な最大クラスの高潮に対しては、最低限人命を守るという目標のもとに被害をできるだけ小さくする「減災」を目指す。

⇒ 6 ケースの想定シナリオにより、高潮浸水予測を実施していく。

3. 主な意見

委員からの主な意見は、以下のとおり。

- ・高潮予測にあたっては、計算の再現性について確認すること。
- ・表浜については、波浪に対する再現性をチェックした上で、波浪の影響を考慮した台風コースを検討する必要がある。
- ・防災対策を考える上では、2009 年 18 号台風のような実際に被害があった台風についても検討していく必要がある。
- ・複合災害については、ソフト対策を含む総合的な対応が必要であり、内水氾濫と高潮との複合災害についても検討できるとよい。